

令和3年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業

我が国の電子的な母子保健ツールと活用に関する 実態調査 -事例集-

株式会社野村総合研究所
コンサルティング事業本部
ヘルスケア・サービスコンサルティング部

2022年（令和4）年3月

NRI

Share the Next Values!



目次

背景

地方自治体による電子的母子保健ツールの活用実態

電子的母子保健ツールの普及に向けた課題

先行事例 ①愛媛県西条市

先行事例 ②福岡県北九州市

先行事例 ③群馬県前橋市 / 宮崎県都城市

先行事例 ④静岡県磐田市

先行事例 ⑤東京都港区

背景 地方自治体における母子保健行政の課題

- ✓ 2021年の9月に全国の地方自治体を対象としたアンケート調査を実施した。
- ✓ 918の市町村から回収を頂き、電子的な母子保健ツールの利活用に関する実態と課題の把握を行った。

母子保健行政・業務の課題

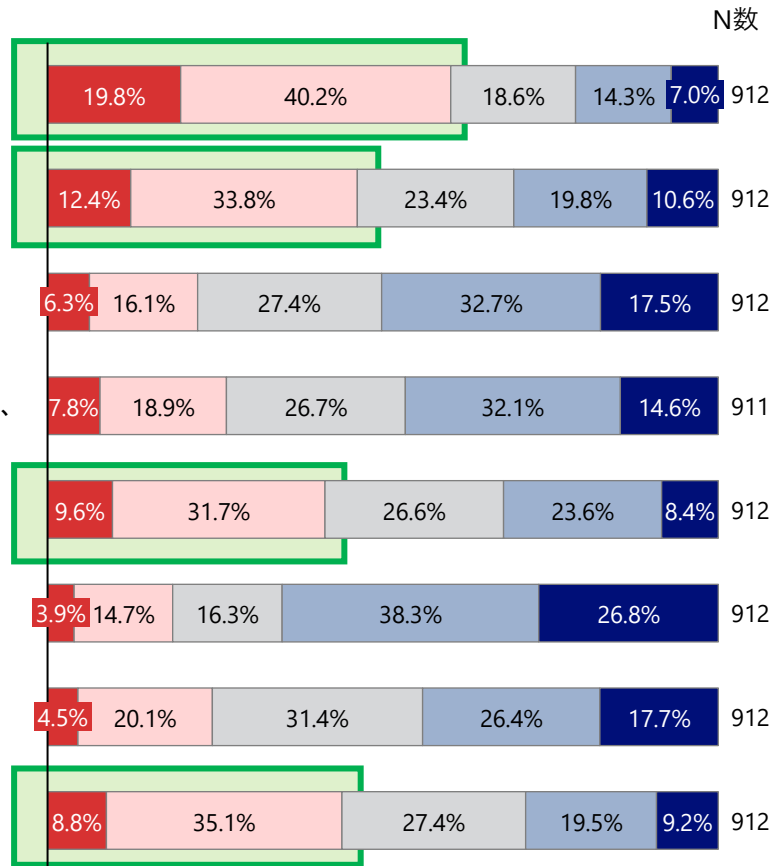
設問

貴自治体では、母子保健行政・業務にどのような課題をお持ちですか。

- ✓ 課題として最も多いのは業務負荷が大きい点。
- ✓ 経費削減や、母子へのサポート体制充実、情報提供手段の充実が続く。

- (ア) 課題意識がある
- (イ) どちらかという課題意識がある
- (ウ) どちらともいえない
- (エ) どちらかという課題とは考えていない
- (オ) 課題とは考えていない

- (1) 行政的な手続きへの対応や、お知らせの送付等、母子保健関連の業務負荷が大きく、これを効率化したい
- (2) 行政的な手続きへの対応や、お知らせの送付等に係る人件費や経費（紙面送付にかかる代金等）を削減したい
- (3) 地域内のネットワークづくりのための庁内の連携や病院/保育園等の外部機関との連携がアナログ的（紙面や電話などで行われている等）に行われることで、業務負荷やミスが生じており、これを解消したい
- (4) 特定妊婦や虐待リスクのある家庭等の要支援者/ハイリスク家庭等の問題ケースを見逃してしまう場合があり、早期に対処できるようにしたい
- (5) 母子へのサポート体制（情報提供、相談窓口等）が十分でないと感じており、これを手厚く行いたい
- (6) 自治体内での健診・予防接種受診率が低く、これを高めたい
- (7) 住民の事務手続きに係る負担（出生届の提出等）を減らしたい
- (8) 住民向けの効率的な情報提供手段がなく、これを充実させたい

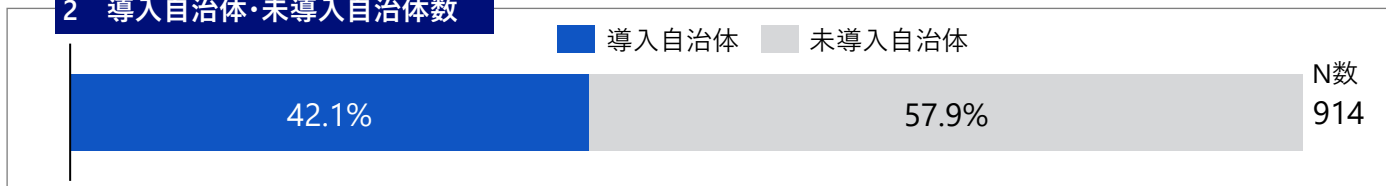


- ✓ 自治体の業務負荷の軽減や、住民へのサポートの質向上に対して、ICTツールがどのように活用されているのだろうか？

地方自治体による電子的母子保健ツールの活用実態

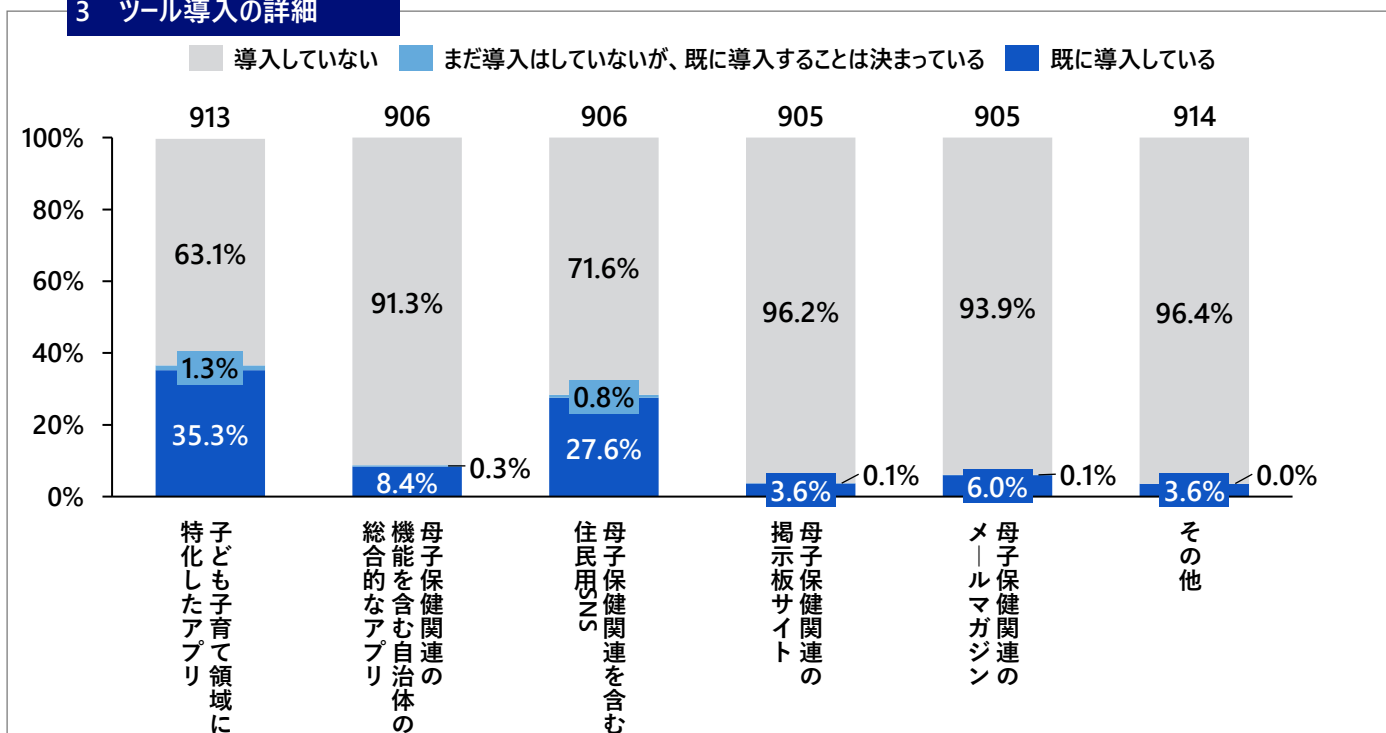
- ✓ 母子保健に関するICTツールを導入している自治体は全国にどの程度あるのだろうか？
- ✓ また、どのようなアプリを住民に提供しているのだろうか？

2 導入自治体・未導入自治体数



- 回答があった自治体のうち、電子的母子保健ツールを自治体単位で導入しているのは、42.1%にのぼった

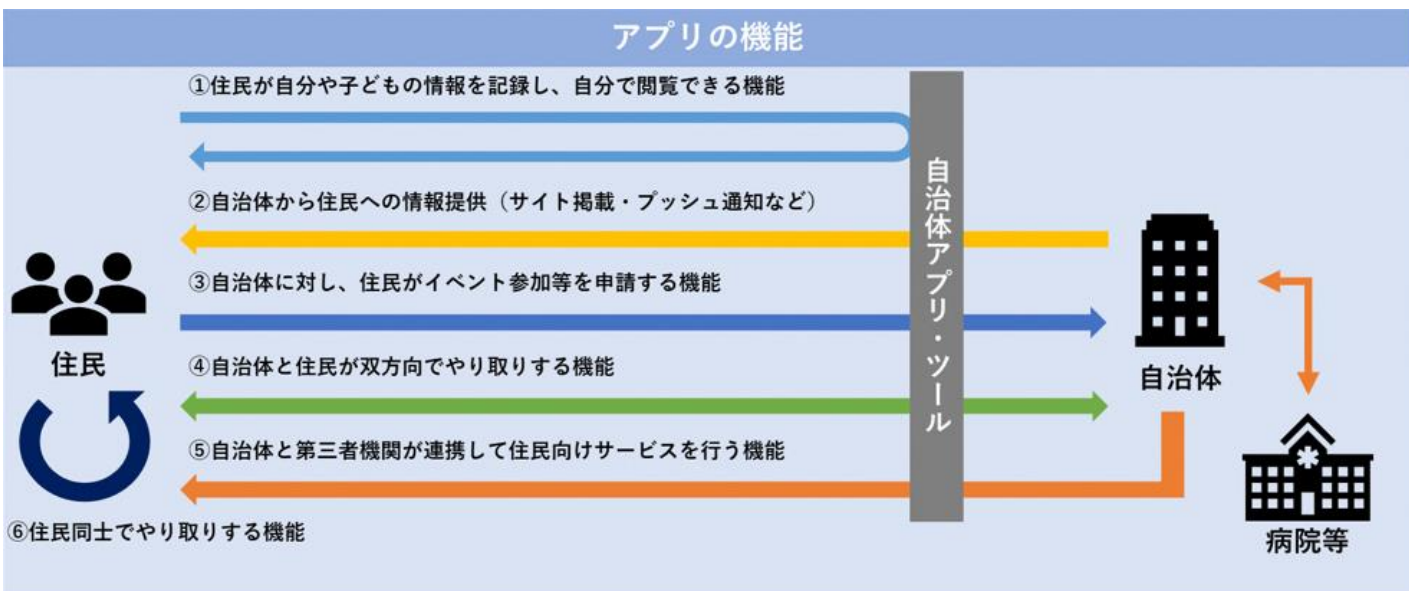
3 ツール導入の詳細



- 特に子ども子育て領域に特化したアプリを導入している自治体の割合が高い。

地方自治体による電子的母子保健ツールの活用実態

✓ ICTツールを導入している自治体では、具体的にどのようなアプリが提供されているのだろうか？



ツールに搭載されている機能

(1) 【上記図中①】住民が自身の情報や子どもの情報を
入力・管理する機能（例.母子手帳内の記録機能、予防接種のスケジューラー 等）

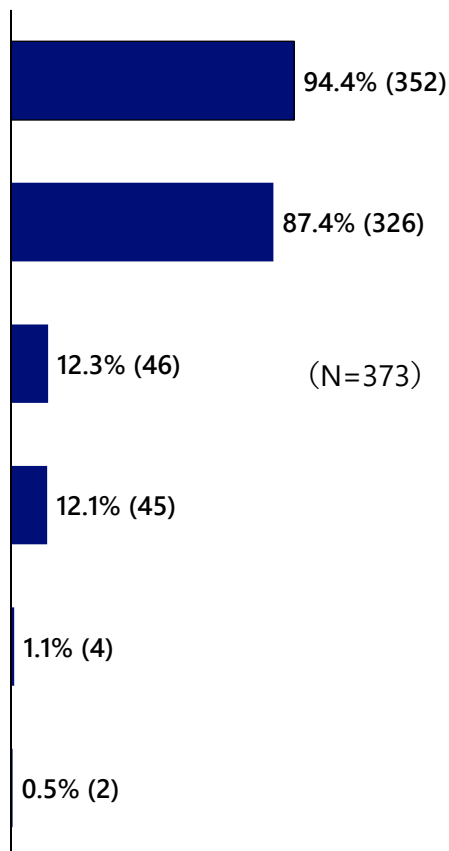
(2) 【上記図中②】自治体から住民へアプローチする機能
（例.イベントへの招待、自治体の支援策通知、予防接種等の未受診通知 等）

(3) 【上記図中③】住民が自治体に申請できる
機能（例.妊娠届の電子申請、予防接種予診票の再交付申請、育児教室申し込み、等）

(4) 【上記図中④】住民が自治体とやり取りし、
妊娠時や子育て等の母子保健に係る
悩みを相談することができる機能（例.オンライン相談、相談チャット 等）

(5) 【上記図中⑤】第三者機関（医療機関、保育所など）と連携して
自治体が母子保健に係る情報提供や介入をする機能
（例.医療機関の予約システム連動、保育所の抽選 等）

(6) 【上記図中⑥】母子保健に係る共通の悩み
（不妊や子育て、子どもの疾病など）を持つ住民同士が
つながることができる機能（例.チャットや掲示板など）



地方自治体による電子的母子保健ツールの活用実態

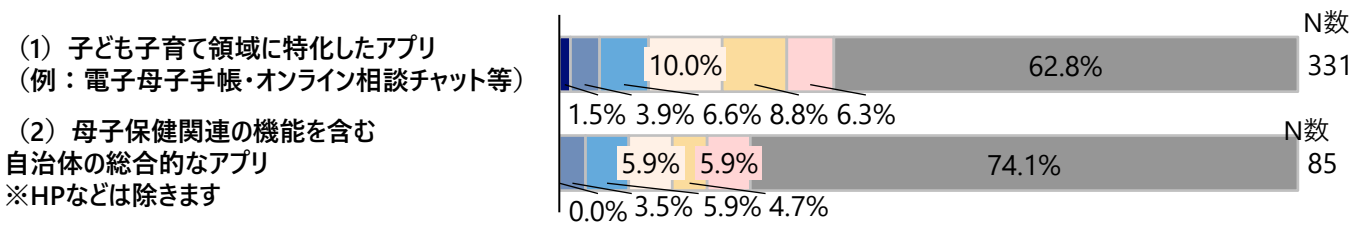
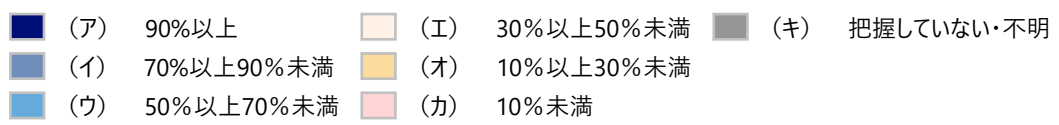
✓ ICTツールの住民への普及はどの程度進んでいるのだろうか？

利用者数の把握



□ 母子保健アプリにおいて、ユーザー数を把握している自治体が8割以上

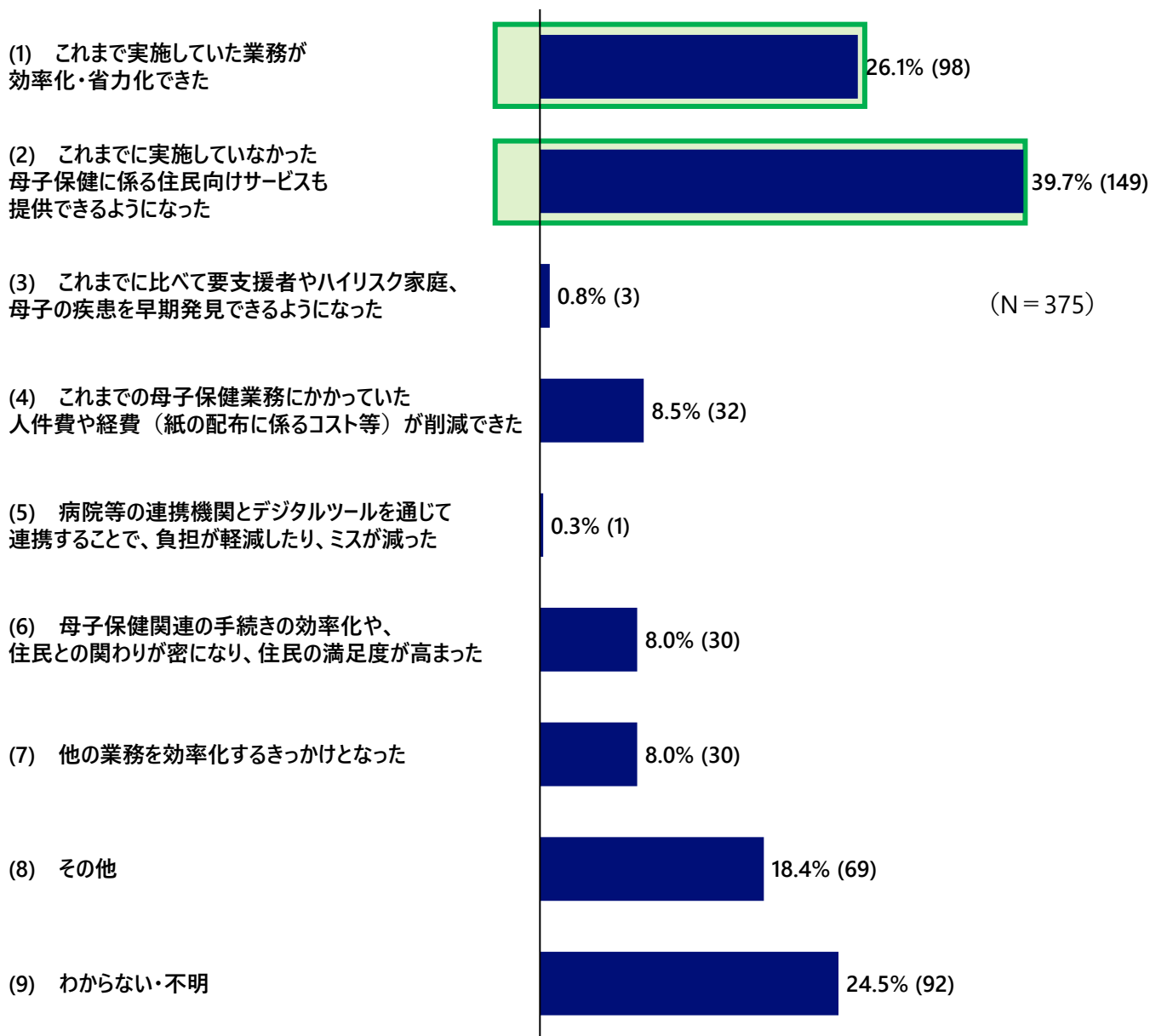
想定ユーザーのカバー率



□ 想定ユーザーの70%以上に導入がされている自治体もある一方で、30%未満にとどまっている自治体も多い。

✓ ICTツールの導入の効果にはどのようなものがあるのだろうか？

母子保健ツール導入の効果



□ 母子保健に係る新たな住民サービスの提供や、業務の効率化・省力化が成し遂げられたとする声が多い

ここまでのまとめ

- 地方自治体の母子保健行政は、課題として業務負荷が大きい点。経費削減、母子へのサポート体制充実、情報提供手段の充実等があげられる。
- ICTツールの導入実態は回答の42%。その多くが、母子保健専用のアプリを提供している。
- アプリの住民への導入率は、自治体によってばらつきがあり、高い自治体もあれば低い自治体もある。
- アプリの導入によって、業務負荷の低減や住民へのサービスの質向上を実感している自治体もある。

実際にICTツールを導入して、自治体の行政課題の解決や住民サービスの高度化に取り組んでいる事例を紹介する。

事例-01 愛媛県西条市

自治体名

愛媛県西条市

取組概要

住民のニーズを把握したうえで、住民目線でアプリ機能を拡充

- 導入前は5年に1回の頻度で住民ニーズアンケートを実施
- アプリ導入後は、紙や自治体HPを用いて年に一度アプリに関するアンケートを実施
- アンケート結果に基づき、掲示板機能や一時保育のシステム化等を実現

1. 母子関連アプリに搭載されている機能

アプリ名

西条市わくわく子育て応援サイト「ハピ♡すく」

搭載機能

- 子育て情報発信メール配信乳幼児健診スケジュール子どもの成長記録予防接種スケジュール子育て施設検索
- [電子掲示板「ハピ♡すくネット」](#)
- [一時保育の予約](#)

活用方法

- アプリ上での掲示板「ハピ♡すくネット」では、[掲示板で自治体職員や保健師等の専門職に相談したり、住民同士で悩みを共有したりすることが可能](#)であり、自治体としては住民のニーズ把握に利用
 - 自治体職員や保健師等からは基本的に3営業日以内に回答
- 一時保育の予約は、アプリを通じて施設を予約できる機能であり、24時間どこからでもアクセス可能

電子掲示板「ハピ♡すくネット」

一時保育の予約

東予南こども園

東予南こども園 2022年3月の申込
手続きへ

2022-02							2022-03						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜
			1	2	3	4				1	2	3	4
				-	-	5				○	○	○	5
6	7	8	9	10			6	7	8	9	10	11	
					11	12				○	○	○	12
13	14	15	16	17	18		13	14	15	16	17	18	
						19				○	○	○	19
20	21	22		24	25		20	21	22	23	24	25	
						26				○	○	○	26
27	28						27	28	29	30	31		
										○	○	○	

導入による変化

業務フロー

- 各家庭の一時保育の予約状況を、手書きで作成していた
- 自治体への相談一時保育の予約は、電話自治体窓口での対応が基本であった

住民のフロー

- 施設は、平日の昼間等に、電話で予約する必要があり、手書きでのスケジュール提出が必要だった
- 専門職への相談も、これまでは電話やで問い合わせをする必要があった

➤ システムを用いてより簡単に各家庭の予約スケジュールを作成できるようになった

➤ アプリを通じて相談一時保育予約ができるようになったことで、電話対応および窓口の業務負担が減少した

➤ 24時間どこからでも施設の予約ができるようになり、手書きの負担も減少した

- 掲示板で「自治体からの回答を希望」欄にチェックし、気軽に相談できるようになった
- 自治体の窓口負担が軽減した

一時保育システムの改善

これまでの手書きスケジュール


現在運用中の自動化スケジュール

一時保育利用料 (西条市立河北こども園)

園児名 ()

保護者名 ()

住所 ()



2/10	2/17	/	/	/	/	/	/
半日	半日	半日	半日	半日	半日	半日	半日
一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日
/	/	/	/	/	/	/	/
半日	半日	半日	半日	半日	半日	半日	半日
一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日
/	/	/	/	/	/	/	/
半日	半日	半日	半日	半日	半日	半日	半日
一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日
/	/	/	/	/	/	/	/
半日	半日	半日	半日	半日	半日	半日	半日
一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日	一日



一時保育利用

お名前 お子様 () 住所 ()

保護者 ()

施設名 小松東保育所 (ここてらすこまつ)

2022 02 / 01	2022 02 / 04	2022 02 / 08	2022 02 / 15	2022 02 / 18	2022 02 / 22
全日	全日	全日	全日	全日	全日
2022 02 / 25					
全日					

【保護者の方へお願い】 利用中、実施園から電話連絡をしたときは、必ず応答してください。



一時保育利用

お名前 お子様 () 住所 ()

保護者 ()

施設名 小松東保育所 (ここてらすこまつ)

2022 02 / 02	2022 02 / 07	2022 02 / 09	2022 02 / 14	2022 02 / 16	2022 02 / 21
半日	半日	半日	半日	半日	半日
2022 02 / 28					
半日					

【保護者の方へお願い】 利用中、実施園から電話連絡をしたときは、必ず応答してください。

ハピ♡すくネット

記事を投稿する

▼タイトル

ライフステージ選択 ◊ テーマ選択 ◊

▼本文

※記事投稿は300字までとなっております。
 ※画像の掲載はできません。
 ※内容の承認までにお時間をいただく場合がございます。
 ※市が不適切と判断した内容については、掲載・回答しないことがあります

以上をご確認の上、「同意する」にチェックしてから投稿ボタンを押してください。

同意する

西条市からの回答を希望する

投稿する

自治体からの回答を得たい場合はチェックを入れられる

2. 導入の経緯

困っていたこと（導入の背景ねらい）

- 子ども子育て支援新制度が施行されてから、住民向けサービスは拡充した一方で、各サービスは十分に認知利用されていなかった。
- また、ニーズ調査から保護者へのサポートが不十分という結果も得られ、アプリを通じて支援できないかと考えた。

導入に向けた課題

- 導入前
- 子ども子育て支援新制度により住民向けサービスが充実していく一方、認知利用が不十分と感じていた。
 - 機能によっては、市役所内の他部署や、第三者機関の協力が不可欠な場合があり、調整が必要であった。
- 導入後
- 子ども子育てに特化した財政支援補助制度がない状態で、住民が求める機能を拡張していきたいと考えていた

西条市なりの工夫

- 5年に一度実施するニーズ調査から定量情報としてエビデンス化した
- 実際に関係者のもとへ訪問したり、操作説明会などを地道に実施した
- 住民ニーズはアプリに関する調査で把握した利用可能な補助金を地道に調査した

実際に配布した調査表の設問・選択肢一覧

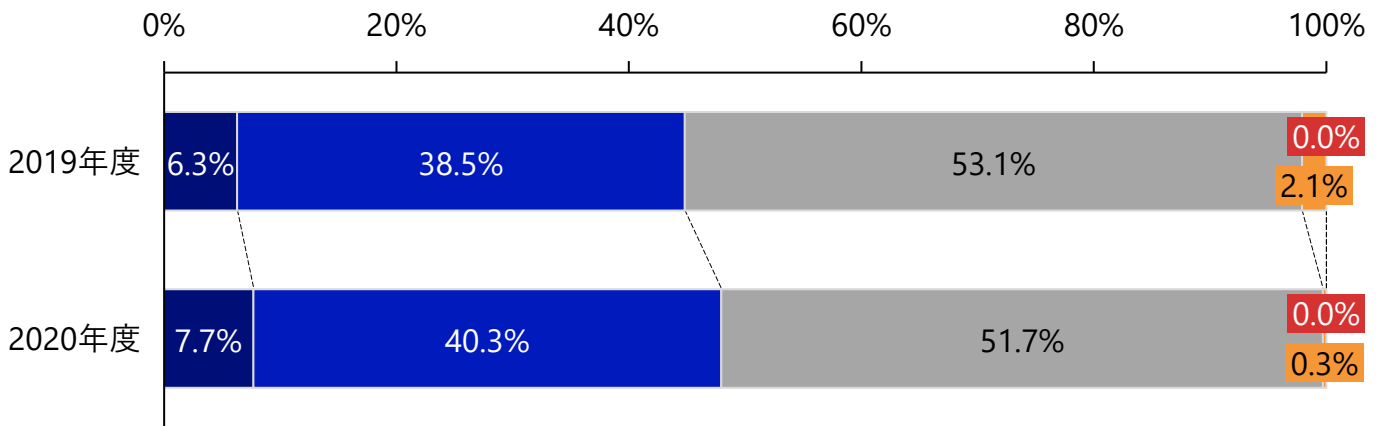
設問番号	設問文	選択肢
問 1	「お子様の人数」を教えてください。	0人 / 1人 / 2人 / 3人 / 4人 / 5人
問 2	「一番下のお子様の年齢」を教えてください。	胎児（妊婦の方） / 0歳 / 1～2歳 / 3～5歳 / その他
問 3	西条市で実施している下記の事業について、知っているものを <u>全て</u> 選択してください。	延長保育 / 休日保育 / 障害児保育 / 一時保育 / 保健センターの子育て相談事業（ハピ♡すく相談室等） / 地域子育て支援センター / 地域交流センター（児童室） / 児童館 / 幼稚園の預かり保育 / 病児・病後児保育 / ウイングサポートセンター / おむつ券（愛顔の子育て応援事業） / ファミリーサポートセンター / すくすくナビゲーター / 産前産後ヘルパー派遣事業 / 子育て世代包括支援センター（ハピ♡すくルーム） / 産後ケア
問 4	「ハピ♡すく」を知っていましたか？	知っていた / 知らなかった
問 5	「ハピ♡すく」をどのようにして知りましたか？（複数回答可）	チラシ / 広報さいじょう / 市ホームページ、フェイスブック / 冊子「ハピ♡すくブック」 / 利用施設（保育所、支援センター等）のポスター / 保健センター / 保健師からの案内 / すくすくナビゲーターからの案内 / その他
問 6	「ハピ♡すく」に登録していますか？	登録している / 登録していない
問 7	「ハピ♡すく」を利用（お知らせの確認などを含む）していますか？	利用している / 利用していない
問 8	「ハピ♡すく」を利用（お知らせの確認などを含む）する機会はどのくらいですか？	毎日 / 週4～7日 / 週 1～3日 / 週 1日未満
問 9	「ハピ♡すく」を利用した感想はいかがですか？	かなり良い / 良い / 普通 / 悪い / かなり悪い
問 10	どの機能（メニューパネル）をよく利用していますか？（複数回答可）	市からのお知らせ / 流行疾患情報 / 成長の記録 / 予防接種 / ハピ♡すくネット（電子掲示板） / 赤ちゃんとママの健診 / 子育て情報 / 施設等検索 / 医療機関検索 / 緊急マニュアル / 一時保育予約 / 離乳食 / その他
問 11	「ハピ♡すく」に登録または利用していない理由は何ですか？（複数回答可）	方法が分からない / 操作が面倒だ / 必要な機能がない / その他
問 12	「ハピ♡すく」について自由なご意見を記入してください。	（FAのため選択肢なし）

3.取組の成果

- 左記の通り、電話で対応していた業務（自治体への相談一時保育の予約）の負担が軽減した。
- 掲示板機能の導入により、施設に来所しないような家庭の相談ニーズにもリーチできるようになった。
- アプリに関するアンケート調査を年に1度行い、機能や使いやすさ等を改善してきたことにより、アプリに対する満足度が向上した
 （「悪い」「かなり悪い」と答えた人の割合：2020年度2.1%、2021年度0.3%）

アプリ利用の満足度調査結果

■ かなり良い ■ 良い ■ 普通 ■ 悪い ■ かなり悪い



4.今後の展望

- 住民ニーズ調査より、「予防接種が多岐にわたり、スケジュール機能は良いがスケジュール機能の画面からさらに医療機関の予約サイト連動ができれば望ましい」という声が寄せられており、直接病院の予約や問診票の作成がアプリ上でできるようにしたいと考えている。もし実装できれば、「スケジュール」⇒「予約」⇒「問診」⇒「記録」が完結する。
 - 課題として、病院予約等になると、アプリ上で個人情報を把握する必要があり、また医療機関や保健センターとの協働も課題である。

	スケジュール	病院予約	問診接種	記録
現状	<ul style="list-style-type: none"> アプリ上の補助機能を使い、スケジュール 	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールを踏まえ、電話予約 	<ul style="list-style-type: none"> 病院に訪問し、紙の問診票記入後、接種 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身でアプリに記録
将来	<ul style="list-style-type: none"> アプリ上の補助機能を使い、スケジュール 	<ul style="list-style-type: none"> アプリで病院を予約し、病院訪問前に問診票を事前記入したうえで接種 		<ul style="list-style-type: none"> アプリに自動的に記録

事例-02 福岡県北九州市

自治体名

福岡県北九州市

取組概要

外部ステークホルダーとの綿密な調整の上、スモールスタートで機能拡充

- アプリ導入前から、母子保健領域においては産婦人科や小児科の医師に、こまめに情報共有を実施
- そのうえで、基本機能のみでまずは走り出し、その後独自機能を拡充していく予定

1. 母子関連アプリに搭載されている機能

アプリ名

母子手帳アプリ「きたきゅう子育て応援アプリ」



搭載機能

- 市からの子育て情報発信・母親・子供の健診記録管理・子どもの予防接種管理・成長記録ファミリー共有・子育て支援施設の検索
- (今後実装予定) 妊娠届出アンケートの電子化
- (今後実装予定) 乳幼児健診の電子化

活用方法

- 現時点では、情報発信や基本的な母子手帳アプリと同様の機能を住民に提供するためのツールとして活用している段階
- 今後は、妊娠届出アンケートをはじめとした、実現したい政策を乗せるための“箱”として機能する予定

導入による変化

住民のフロー

- HP上に記載するのみで、住民が自ら情報を取得しなければいけなかった

- 必要な情報やアドバイスが、時期に合わせてタイムリーに、かつ自動で自治体から届くようになった

2. 導入の経緯

困っていたこと（導入の背景・ねらい）

- 紙面による業務が非常に多く、非効率性が発生していた。
- また、その点を自治体業務改革の文脈で、コンサルティングファームに第三者的にアドバイスをもらい、紙面業務の削減に向けて動き始めた。

導入に向けた課題

- 導入前
- 導入に際し、第三者的に関与するステークホルダー（産婦人科医・小児科医）の調整
- 導入後
- 実現したい施策実施を一気に成し遂げるには、予算や業務量が急激に増大するというジレンマの解消

北九州市なりの工夫

- 産婦人科や小児科の医師らに対し、政策実現前からこまめに情報共有し、実際に会議の議題に挙がる前から相談等を行うことで、母子保健関連は政策を実現しやすい状態を整備
- まずは基本的な機能のみを実装し、その後細かく機能を追加していくことで、自治体の負担や失敗が少ない形で施策を実現

調整イメージ

施策検討

自治体内のみで検討



自治体

施策実行

自治体から医療機関等への調整に工数がかかり、住民へのサービス提供の遅れや、最悪のケースでは頓挫

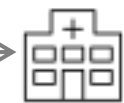


一般ケース

医療機関の意見を聴きながら検討

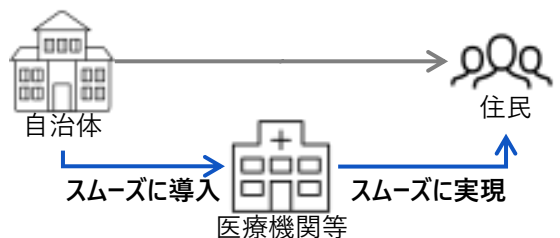


自治体



医療機関等

事前の相談により、医療機関等との調整がスムーズに進み、サービスの提供も円滑に実現



北九州市

3. 取組の成果

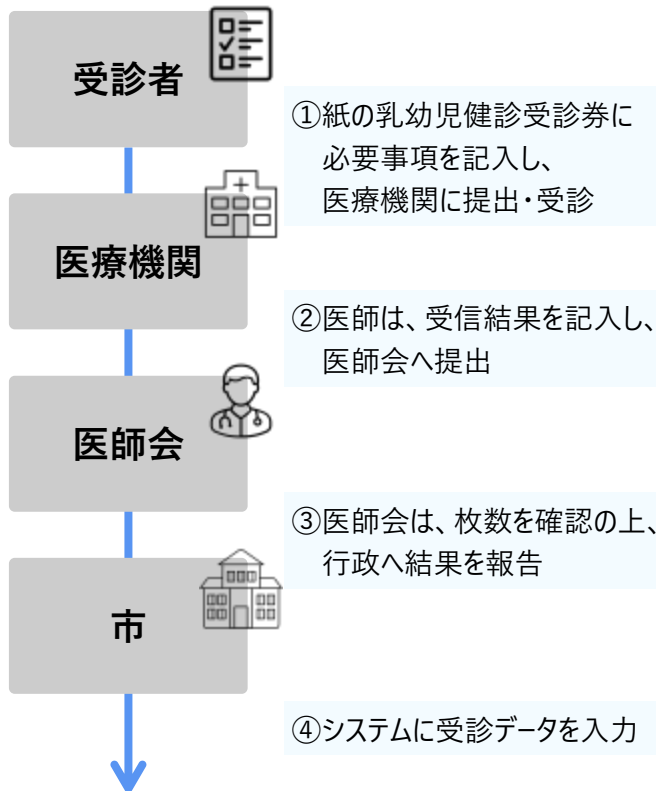
- 現時点での成果は、紙での業務負荷の軽減が挙げられる。
- また、住民サイドからすると、これまで自身で取りに行かねば把握できなかった情報を、プッシュ型で自治体から配信されることにより、タイムリーに適切な情報が手軽に得られることが成果として考えられる。

4. 今後の展望

- 前述の通り、妊娠届出手続きの際に妊婦に記入してもらったアンケートを電子化する予定
 - 紙で回答する手間の削減と、窓口の対応時間削減、見落としやミス回答等の回避を目的としている
- また、自治体へのデータ到着を早めることを主な目的とし、乳幼児健診等の電子化も視野に入れている。

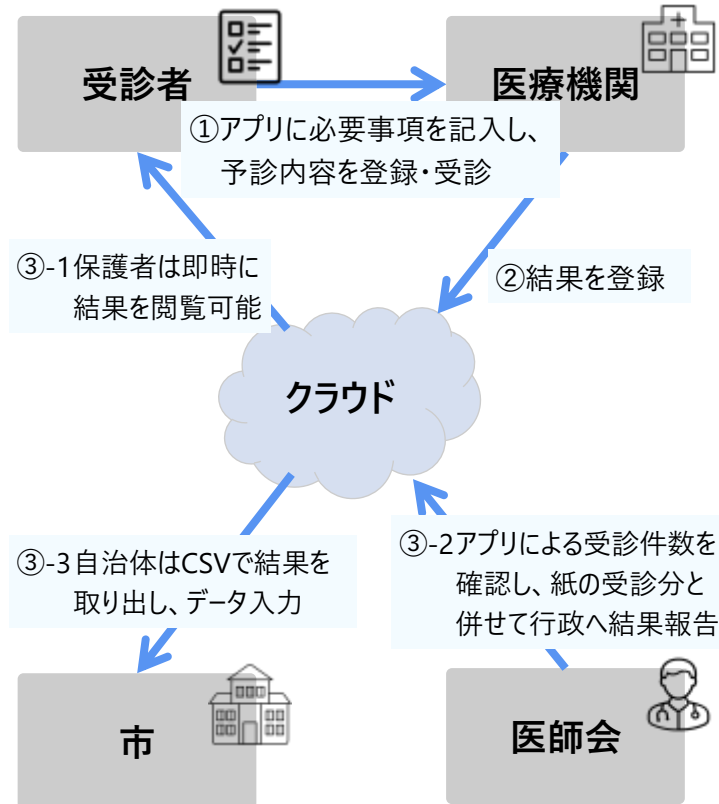
現状（導入前）

一方向の情報伝達



将来（導入後）

クラウドを活用した素早い情報伝達



事例-03 群馬県前橋市・宮崎県都城市

自治体名

群馬県前橋市・宮崎県都城市

取組概要

- 早期からマイナンバーカードを活用し、個人を特定して健診情報を返し、その後機能更新
- PHRを活用していくという流れの黎明期に先進的に導入し、個人の健診データまでアプリ上で閲覧可能に
- 導入後様々な課題が生じたが、自治体の意見を踏まえたアプリのリニューアルにより改善

1. 母子関連アプリに搭載されている機能

アプリ名

OYACO plus

搭載機能

- 育児スタンプ、メモリアルバッジ（日記）、健診データ、予防接種履歴（以下詳細）
- マイナンバーカードや、本人確認書類の提出をもって母親及び子どもの健診（特定健診結果・乳幼児健診結果）や予防接種履歴が閲覧できる機能を搭載

活用方法

- 住民からすると、紙ベースでの母子手帳が無くても子供の予防接種履歴を閲覧することができ、ある程度子供が大きくなってからも過去の情報を簡単に閲覧可能
- 子どもの年齢・居住地によってカスタマイズした情報発信により、より各住民に関係の深い情報のみを提供することで、適切な情報提供が可能

搭載されている機能



2. 導入の経緯

困っていたこと（導入の背景・ねらい）

- 黎明期に早期導入し、サービスを提供してきたが、UI・UXの観点やサーバーの重さ等のユーザー・自治体双方にとっての利便性が少しおざなりにされてきていた。
- また、マイナンバーカードでの登録もしくは自治体窓口への本人確認書類の提出が前提であったため、ユーザー獲得の間口が狭くなってしまっていた。

導入に向けた課題		工夫	
導入後	➤ 導入に向けた予算の獲得	←	➤ デジタル企画室等の <u>企画部門と一緒に進めることで円滑化</u>
	➤ 早期導入後のUI・UXへの対応やサーバーの負荷軽減による自治体側の操作性の向上	←	➤ 可読性・操作性を向上させる機能更新
	➤ アプリの普及率を下げている本人確認手続きのハードル低下	←	➤ 以前は窓口での本人確認もしくは紙面での郵送が前提であったが、初期登録にワンタイムパスワードを利用し、データ連携をする場合は、本人確認を行うよう改修
	➤ 出産前からのアプリ利用率の増加	←	➤ <u>妊婦の特定健診結果も共有することで出産前から利用可能に</u>

3. 取組の成果

- 母子手帳アプリが住民の満足度向上だけでなく、マイナンバーカードの普及率向上のインセンティブとしても寄与

4. 今後の展望

- 現状はアプリと紙が併存していることにより、保健師は通常業務に加えてデジタルでの追加処理が必要であり、業務が二重になっている。したがって、保健師の業務量を減らすことを実現していきたい。
 - 例えば、アプリで健診を予約した際にアプリで問診票を記入出来たりすると保健師の業務が減ると想定している。
- 今後は、学校健診等も含め、より長い時間のデータを返していくことで、まさにPHRとしての価値向上につながるのではないかと考えている。

事例-04 静岡県磐田市

自治体名

静岡県磐田市

取組概要

様々なチャネルでの普及広報活動で電子母子手帳アプリを市民へと浸透

- アプリの機能としてはユーザーへのプッシュ通知を利用
- アプリの普及率を高めることを重視し、様々な媒体での周知活動を実施
- アプリを活用した市民への情報提供により、自治体業務の効率化も実現

1. 母子関連アプリに搭載されている機能

アプリ名 いわた子育てアプリ

搭載機能

- ユーザーへアプリを通じてプッシュ通知や情報発信を実施
 - 妊産婦や子育てに必要な情報をコラムを通じて住民へ提供
 - コロナ禍での、健診等の中止・再開情報を配信 等
- 予防接種のスケジュール管理の機能

アプリの普及活動

普及活動

- 母子手帳交付時にアプリ導入について保健師からの声掛けを実施。
- 子育て情報誌上にアプリの情報を掲載。
- 赤ちゃん訪問の際に、実際に保健師が情報誌の内容に触れてアプリを紹介。
- 健診等の通知の余白にアプリのQRコードを付けている。

効果

- 自治体としてはアプリのダウンロード数を捕捉している。
- 様々な媒体で広報活動を行っており、住民への浸透はそれなりに達成できていると認識している。
- 実感として、住民からの問い合わせ電話の件数等が減少しており、アプリ導入の効果で業務負荷の低減がある程度実現できていると認識している。



導入・機能拡張の流れ

取組前

自治体から市民への効率的な情報発信のあり方を検討していた。既存のパッケージ製品を導入することで、比較的安価に使用を開始することができたため、まずはとにかく電子化に取り組んでみるという思いで導入。

取組内容

電子母子手帳アプリの導入

2018年

- 電子母子手帳アプリの基本的な機能である、自身や子どもの記録機能や、自治体からの情報配信、予防接種の管理機能を実装。
- コロナ禍において健診やイベント（教室等）が急遽中止となったり、再開したりといった中でもタイムリーに市民への情報発信ができ、庁舎への問い合わせを削減できた。

取組時の工夫

様々なチャネルを活用した広報活動で市民への浸透を実現

- 母子手帳交付時に保健師から声掛け。
- 子育て情報誌に「母子モ」の情報を掲載。
- 赤ちゃん訪問の際に紹介。
- 妊婦健診・乳幼児健診の通知の余白に「母子モ」のQRコードを付記。

取組内容

オンラインでの子育て相談を開始

2021年12月

- これまで対面や電話でしか実施をしていなかった子育て相談をオンラインで実施。
※電子母子手帳アプリとの直接の連携は未実装
- 事前予約時に記入された相談内容に応じて、適切な専門職が相談に対応。

現状の課題意識

- ✓ アプリの普及・浸透の度合を定量的に評価することが難しい。
- ✓ アプリを継続的に利用してもらうための工夫が必要。
- ✓ より効果的な利用を目指すのであれば、自治体以外の機関とのシステム連携が必要。

将来

今後は以下の様な取組も検討中である

- 職員が電話で対応している、集団健診の日程変更をシステム上で可能に。
- 健診会場での問診やアンケートの電子化。
- 子育て支援センターの受付を電子化。
またそれによりHP等でリアルタイムでの空き状況も公開。

事例-05 東京都港区

自治体名

東京都港区

取組概要

積極的に機能を拡張。住民の利便性向上と自治体業務の負荷軽減を実現

- 2020年6月よりアプリを導入。その後1年半程の間で積極的に機能拡張を実施。
- コロナ禍で非接触でのやり取りが求められたことや、イベントへの参加ログを把握することの必要性があったことで機能拡張が加速した。

1. 母子関連アプリに搭載されている機能

アプリ名

みなと母子手帳アプリ

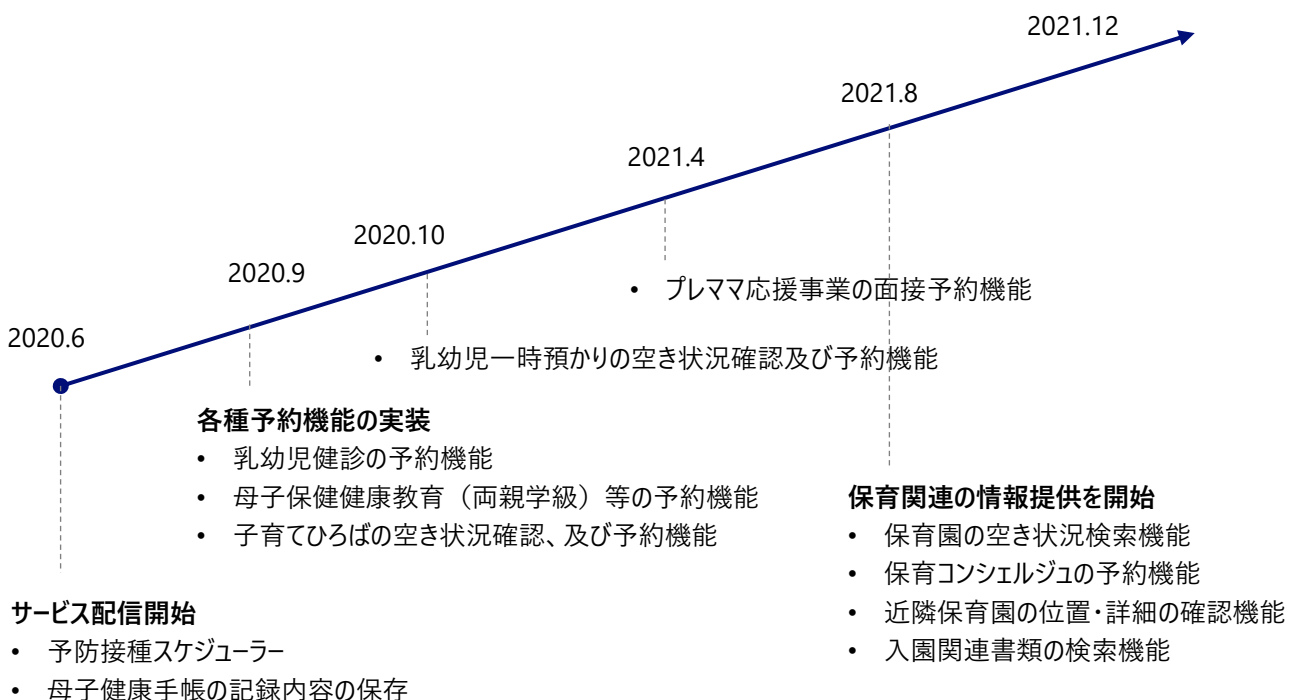
搭載機能

- 予防接種のスケジュールを自動調整
- 健診や両親学級等の予約が24時間可能、また乳幼児一時預かりの予約も可能
- 「保育園」「保育コンシェルジュ予約」の機能

これまでの経緯

- 導入初期から、常に継続的に機能の拡張を続けている。

みなと母子手帳アプリの機能拡張



機能詳細と導入効果

① 予防接種スケジューラー

機能詳細

- アプリに登録をされた、生年月日から予防接種のスケジュールを自動作成し、プッシュ通知やメールでユーザーにお知らせをする。

実施後の効果

- 小児（7歳未満）における予防接種の接種率が前年度比3.9ポイント増、前々年度比5.3ポイント増となった。

今後の展望

- 予防接種予診票の電子化
- 予防接種における予診票の再発行申請機能の実装

機能詳細と導入効果

② 各種予約機能

乳幼児健診/母子保健
健康教育予約

妊婦個別面接予約

子育てひろば/一時保育
予約

機能詳細

乳幼児健診や母子保健健康教育の予約が可能

プレママ応援面接（妊婦個別面接）の予約が可能

子育てひろばの予約、空き状況の確認
乳幼児一時預かりの予約、空き状況の確認

実施後の効果

24時間予約とキャンセルが可能であるため、住民の利便性が向上

従来電話での予約受付であったが、電話回線がパンク状態であったものが改善

電話受付がアプリに代わり、利便性の向上と業務負荷軽減を実現。

今後の展望

母子向けの各サロンや母親学級等も予約をできるように順次機能拡張の予定

機能詳細と導入効果

③保育園関連の情報提供

機能詳細

- 保育園入園に関する情報
- 現在地から近隣の保育園の場所や詳細の確認
- 家庭の状況に応じて、入周申込み時だけでなく入園後に必要な書類の検索
- 保育園の空き状況検索
- 保育コンシェルジュの予約(24時間)
 - 保育を希望する保護者の相談に応じ情報提供を行うもの

実施後の効果

- 保育コンシェルジュの予約受付に係る電話が半分以下になり業務負荷が軽減。

今後の展望

- 保育・保育園に関わる他業務についてもアプリ内での行えるよう検討中

A decorative swoosh graphic consisting of two curved lines. The lower line is solid blue and curves upwards from left to right. The upper line is a gradient, starting with blue on the left, transitioning through purple and red, and ending in orange on the right. It also curves upwards from left to right, overlapping the top of the text.

Share the Next Values!